

2024年NCF助成金事業 助成金給付認定講評一覧

※敬称略・登録順・人名は申請時のまま記載

登録番号	助成区分	研究機関	代表責任者		担当者		研究テーマ	講評
Gr1-2401	研究助成	東京工業大学 建築学系 那須研究室	那須 聖	准教授	那須 聖	准教授	生きた遺産としての日本の近代住宅の公開における居場所のナラティブ	日本の近代住宅を単に空間としてでなく、生活文化財としてのミュージアム価値を高める研究で、「ナラティブ（語り）」によって生活空間に関わる人の物語り性から、新たな価値を見出すことを目指しており、もと人々の心が互いに影響を受けながら発達してきた精神文化としての空間ディスプレイの在り方を示唆している。これまでの「私の家（清家清自邸）」の公開ハウスミュージアム活動にもとづく堅実な実践研究であり、展示公開による普及効果も期待でき、継続的、発展的な研究が期待される。
Gr1-2402	研究助成	神奈川大学 曾我部・吉岡研究室	曾我部 昌史	教授	吉岡 寛之	助教	地域の記憶を記録し共有する場をつくる実践的研究 - 徳島県美波町の古民家を活用した暮らしの資料館 -	本研究は、古民家を地域文化を伝える民俗資料としてとらえて活用し、展示空間の構成を試みるものである。ある時代、ある地域に当たり前だったものが、注意を払われることなく失われることも多いため、本研究は、そのような当たり前だったものに視点を向け、次代に継承しようとする取り組みで大変意義深いものと考え。一つの古民家を中心として、地域に密着した研究手法は計画に具体性があり、住民と協働で記録・展示する地域に密着した研究活動でもあり、展示・教育普及の効果が期待される。
Gr1-2403	研究助成	早稲田大学 創造理工学部建築学科 渡邊大志研究室	渡邊 大志	准教授 /建築家	吉田 希	渡邊大志研究室 学士4年	クロスオーバー・アーキテクチャ研究-多機能な「曖昧な立体（部品）」の開発・生産・流通による空間的实践-	昨年度に引き続いての新たな建築空間構成の可能性をめざす「多機能な「曖昧な立体（部品）」の開発・生産・流通による空間的实践」の研究である。これまでの成果を踏まえて、クロスオーバープロダクトの効果をどのように検証するかが研究上の課題であるが、徐々にブラッシュアップされてきており、今回はワークショップや頒布会を含む展示会による能動的な空間体験によって、新たなコミュニケーションとしての空間ディスプレイの提示と社会的な普及効果が期待される。
Gr2-2401	教育普及 活動助成	ちひろ美術館・東京 （公益財団法人いわさ きちひろ記念事業団）	山田 洋次	理事長	上島 史子	安曇野ちひろ美術館 副館長	「いわさきちひろぼつご50年 こどものみなさまへ あ・そ・ぼ」展	いわさきちひろの作品を発達心理学などの新たな視点で評価しなおし、アーティストも参加して「遊びながら体感できる展示空間」を構築する独創的で意欲的な取り組みである。、絵を見ることを「あそび」として、絵本をみるための遊具や、体全体を使ってちひろの絵のなかに入るインタラクティブな作品などが計画されており、美術展示に映像やインタラクティブな手法を組み合わせたものは、子どもたちにとって魅力的で理解しやすく、よい体験となるもので、その成果がよい参考事例になると期待される。